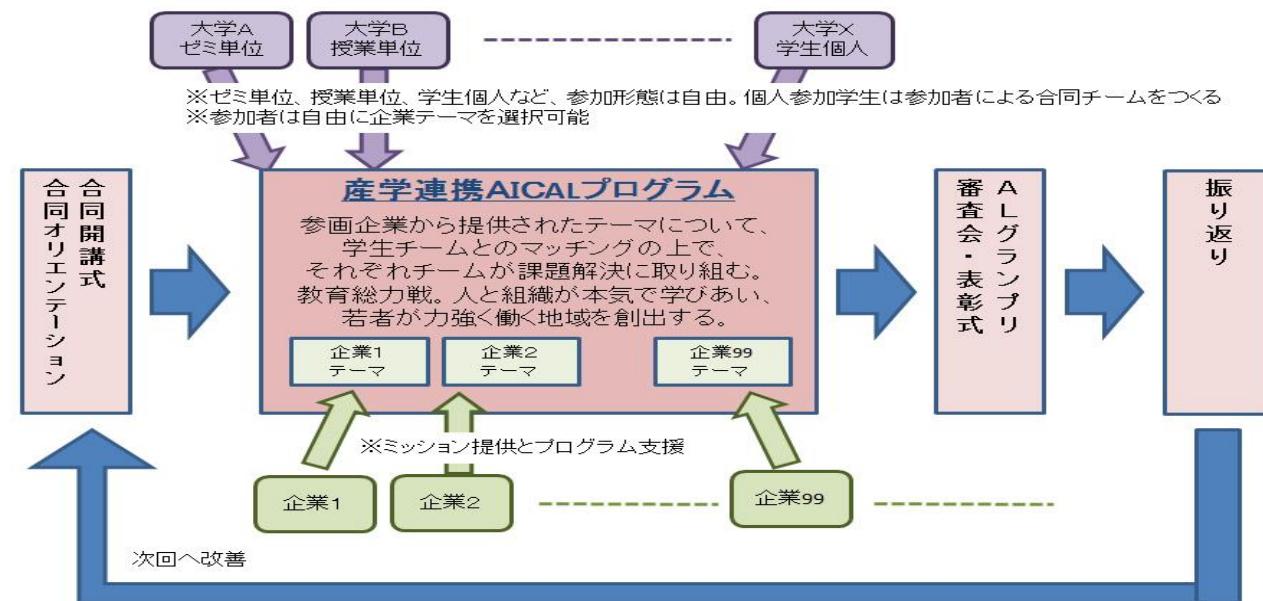


産学協働人材育成プラットフォーム

産学協働人材育成機構 AICE

“AICE”のプログラム例

実践の場「産学連携AICALプログラム」 複数大学・複数企業ミッションによる産学協働アクティブラーニングの実践 Academia-Industry Collaborated Active Learning



産学協働人材育成機構AICEの設立 Academia-Industry Collaborated Education Organization

取組終了後も、広く産学協働の人材育成の輪を広げていく！



目的

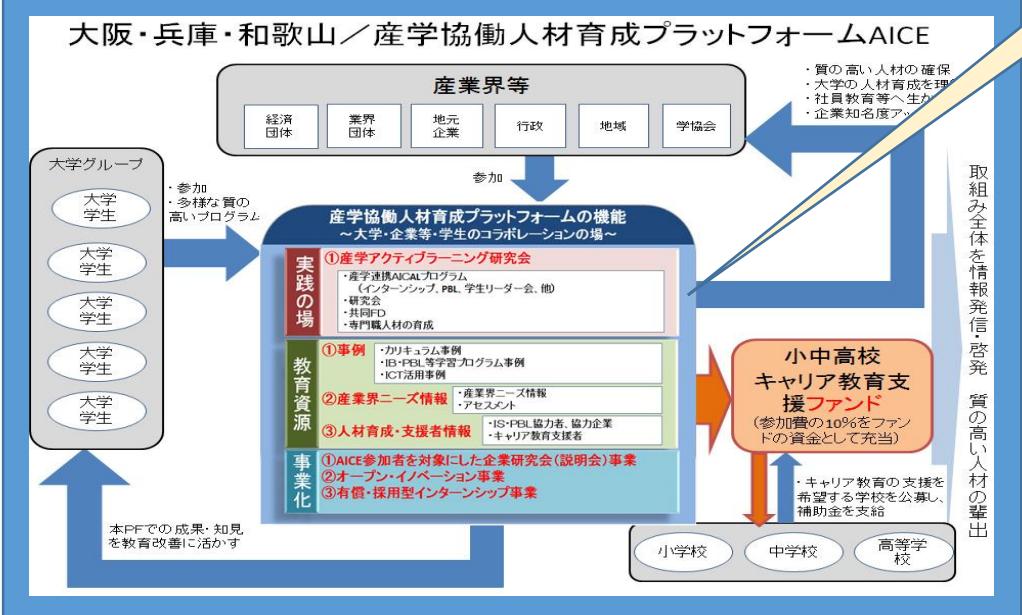
本取組の3年間の成果を活かし、大阪・兵庫・和歌山を中心とした関西地域の更なる人材育成力の向上及び環境整備を図ります。そのために、**アクティブラーニングの質保証**を中心的テーマとした**産官学地域協働による人材育成プラットフォーム**を立ち上げ、**地域の人材育成力を高め**、地域の活性化に寄与することをめざす。

背景

- ①本取組の3年間の成果を集約し、取組終了後も**継続**して活かしたい
- ②**産業界等とのネットワーク**を継続して、大学教育の充実につなげていきたい
- ③大学が輩出する人材と社会が求める人材とのギャップをなくし、社会に役立つ人材をつくるための**産官学地域協働による教育づくり**が必要
- ④産業界ニーズを活かした人材育成の**質の向上及び質保証**を図りたい
- ⑤そのために、産業界等からも期待の大きい**PBLを指導できる人材の確保**と資質向上を図りたい

AICEが求める人材

- ①人(大学、産業界等、学生)が乗っていること
- ②**アクティブラーニングを指導する人の資質向上**をめざす研鑽の場であること(FD)
 - ファシリテーションの上手い人、タイムリーに必要な知識を提供できる人の育成
 - 企画、コーディネートできる人の育成
- ③**アクティブラーニングのプログラム開発・発信**する場であること
- ④人材育成の**質保証**をめざす場であること
- ⑤プラットフォームのクオリティー・コントロールができること
- ⑥ステークホルダーそれぞれに**メリット**があること
- ⑦企業等に求めるのは、生きた課題と教育CSRの思い: 大学側は提供された企業課題の解決の質を高めることでいくらかのお返しをする



実現に向けた事業計画行程表

		次年度	3年後	5年後
内容	- HP (情報)	事例、調査 協働ネットワーク ※人材育成支援者情報	◎ ○	◎ ◎
	- AICEプログラム実施	○	○	○
	- 研究会	○ ※AICEプログラム事前・説明会、中、事後	◎ - AICEプログラム改善 - AL研究 - FD	◎
	参加団体	大学 14校 企業 20社	30校 50社	50校 100社
	必要経費	- HP (ドメイン、サーバー) - AICE運営費(企業依頼、事務局)		
運営費の対応	有志運営 テーマB活用 大阪府と連携・協力	- 大学参加費 - オープンイノベーション事業 - 企業協賛費		



大学のメリット

- キャリア教育関連について大学間で**情報共有**できる
- 産学で人材育成の**質の向上**を図ることができる
- 産学連携プログラムの**協力者ネットワーク**を活用できる
- 他大学と交流することで、**FD、SDの場**として意識を高めあうことができる
- 大学の人材育成を**企業に知ってもらう**ことができる
- 参加しやすい形態(ゼミ単位、授業単位、個人参加等)
- 産業界等に直接評価してもらえることができる
- 企業から直接産業界ニーズを聞くことができる場

学生のメリット

- 所属大学を超えて、**多様な人材育成プログラム**に参加することができる
- 文化の異なる他大学の学生と一緒に学び合い、活動できる(**多文化理解**)
- 多様なタイプの**企業の人と直接交流**できる
- 他流試合の場**として研鑽できる
- 活動の場を広げることができる

産業界等のメリット

- 大学の**人材育成の現状**を知ることができる
- 大学の**人材育成に直接関わる**ことができる
- 求める人材**について、大学に直接伝えることができる
- 大学生を直接知る**ことができる
- 学生に自社を直接深く知ってもらうことができる(**認知度向上**)
- 若手社員の育成の場**としても活用できる